



平成16年 広報

にかほ

編集・発行 / 秋田県仁賀保町役場

新年号

No. 1369
毎月1日・15日発行

祥風





賀

正

平成十六年一月一日

仁賀保町長 巴 徳雄

あけましておめでとうございます。

皆様、お元気で新春を迎えられたことと存じお慶び申し上げますとともに、日頃、町政に対し深いご理解とご協力を賜りありがとうございます。

さて、地方分権が進み、地方の時代を迎えましたが、課題は山積しております。

その中でも町村合併は歴史的な大課題であります。象潟町が合併協議会から離脱したいとの申し入れを受けて、非常に残念ですが、現在合併協議は休止状態にあります。三町は、昔からいろいろなことを仲よく共同でやってきているし、歴史的にも、地形的にも同じ地域であります。さらに住民同士の交流も盛んな地域であります。すでに「新市まちづくり計画」もできており、なんとか合併の火を消すことなく合併実現のために努力してまいりたいと思っております。

今年もなお一層の深いご理解と暖かいご指導、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

皆様のご活躍とご多幸を心からお祈り申し上げ年頭の挨拶いたします。





賀春

平成二十六年 元旦
仁賀保町議会
議長 飯尾善紀

明けましておめでとございます。

輝かしい新年を迎えられました皆様にご心からお慶びを申し上げます。

昨年は選挙一色の年、国政、県政、町政とあらゆる選挙が実施され、町長そして新人四名を含む議員十八名も選出されました。

期待された三町合併も、象潟町の合併協議会離脱により今までの努力も空しく休止状態にあることは誠に残念なことであります。本年こそ話し合いの出来る状況を作るべく努力をしなければと思っております。

議会の使命である町民の生活の安定と住民福祉の向上を理念に、今年も議会一丸となって頑張ります。

今後とも変わらぬご指導をお願い致します。

町民各位のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。



私たちの申年生まれ

人生のめぐり合わせに
感謝しています

さとうさなえ
佐藤早苗さん(田抓)

昭和19年生まれ



猫の『ニャンコ』と犬の『ゴロ』に癒されています

還暦なんて他人事のように思っていました。その自分がいよいよ...とは。私は、近頃よく義母と実母、二人の母について考えるようになってきました。

義母は穏やかで優しくそして前向き、芯が強く人の悪口など口にするこのない人でした。一番驚いたのは、自分が外出する時には三つ指をつけて私に「行ってきます」「今帰ってきました」とあいさつされたことでした。実家の母も「田抓のおばあちゃんのような人はいないよ」とよく言っていました。私は会社勤めだったので、二人の子どもを義母が面倒をみてくれたのですが、その義母も今年で十七回忌を迎えました。

父の三回忌を済ませましたが、母は今でも入退院を繰り返しています。矢島の施設にお世話になっていますが、私が行くのを楽しみに待っています。おやつを食べる時、「うめなー、何食べてもうめーもの」。そんな笑顔を見てほっとして帰って来ます。

思い起こすと、実家の両親は四人の子どもを育てた後、三十年以上二人だけの暮らしでした。現在八十八歳になり、施設で生活している母は、私の顔を見るのが楽しみだと言います。一日でも長くその笑顔が見られるよう、今後もうつもりです。

矢島生まれの自分が東京で暮らし、縁あって仁賀保にAターン、実家に行き来し両親と関わりあえる人生のめぐり合わせに、不思議さとありがたさを痛感しています。

教えることから
多くを学びました

しばた たかお
柴田隆雄さん(平沢)

昭和31年生まれ



私は、どういわけか母校の仁賀保中学校の選択授業「ゴルフ」の講師を数年間依頼されていました。

最初は戸惑いましたが、同好の仲間が少しでも増えればいいかなということでも引き受けました。しかし、いざ本番となると、何も知らない人たちが少し勘違いして覚えている人を目の前にして、何からどのように始めてよいのかといういろいろと考えてしまいました。

その昔、お世話になった先生方を思い起こしてみても感じたことは、彼らは、自分の知識をおおよそ自分の言葉にして私たちに伝えていたということでした。そんなごく当たり前のことを何気なく行なっていたのだと気づきました。

相手を納得させるには、何万語という言葉とそれを補充するしぐさが必要なことで、自分が経験した苦楽や工夫を自問自答しながら言葉にすることで伝えるしかない

ように思います。

「教える」という作業の中で、自分自身も忘れていたことや足りなかったことが発見できることがよくありますし、そして新たな試みや自分自身の発達が自然に成り立ってしまうように感じます。

肩に力を入れずに、ゆっくりと思い出すように急がずに。お互いの目線の高さではなく足下の次元で分別をしっかりとしながら楽しむ。と、ずいぶん欲張りではありますが、人と接してみると充実した気分になりましたし、最高の感動もありました。それを教えてくれた人々には素直に感謝しています。今のところまだ言葉にすることができません。

あと、一回りもすれば、もっと多くのことにも言葉にして感謝することができるんじゃないかなと思いますので、十二年後の私に会う日までがんばります。

年男、年女のみなさんに 日々の雑感をつづっていただきました。

遠回りの人生に 味がある

おく やま かず み
奥山和美さん(畑)

昭和43年生まれ



「楽しい物が家」で生活相談員を務める

今年、自分は何回目？かの申年を迎えることになりました。「光陰矢のごとし」という言葉がありますが、まさにそのとおりで、あっという間に時が過ぎ、いつたいこの歳まで何をして来たのだろうという思いがあります。…後悔しても始まらないのですが。

今、自分は福祉の仕事に就いています。この仕事をして今年で丸七年が過ぎようとしています。福祉のことなど何も知らないド素人で入社し、現在に至っています。

私が今まで就いた仕事といえば、何の縁か、学生の頃から接客業ばかり。この福祉の仕事も接客業なのですが、今までとは違う何かを常を感じながら仕事をしています。たまに先輩と酒を飲みながら話をしていて、物分かりの悪い自分はたまにぶつかる時があります。

そして仕事に追われる毎日のなかで、よく今までやってきたものだと思っています。

これもひとえに良き友だち、先輩、指導者に恵まれたおかげです。その人たちの恩に報いるために、日々悔いの残らないよう生きていたいと思います。人生を遠回りしてきた人間はとも味があると自分に言い聞かせ、これからはがんばりたいと思います。

「猿の人まね」「猿も木から…」など、私の干支、猿(申)にちなんだことわざにはあまり良いものはないようですが、自分にとって新たに良いことわざが生まれるよう精進していきたいものです。

今年一年、みなさまにとっても良い一年でありますようお祈りし、申年の一人として独り言を終わります。ありがとうございました。

笑顔を忘れず お客様を大切に

えい き なお み
栄喜直美さん(上坂)

昭和55年生まれ

今の仕事に就いて、五年が経ちました。

高校を卒業してスーパーに勤め始めた頃、やったこともない仕事で何からやっていいのかわからず、人一倍心配性な私は迷惑をかけてはいけないと思い、言われたことばかりやっていました。

しかし、ある日、このままでは自立して自分から何もやれなくなると思い、先輩方の仕事を見ながらあまり聞いたりしないのでがんばってみようと思えました。

最初の仕事は物出しと品物の補充や売り出しの準備などでしたが、慣れてきた頃にはレジに立たされて接客を任せられました。

私は人と話すのが苦手で、相手の顔すら見ることができないほど



友人と(右側が栄喜さん)

の人見知りなので、どちらかというと下のほうを向いてレジ通しなどをしていました。レジ担当の主任には「上を向きお客様の顔を見て笑顔で接するように」とアドバイスされましたが、なかなかできませんでした。

しかし、五年経った今では、まず始めにレジ全体を見回して自分に気合を入れてから仕事に入るまでになりました。お客様を笑顔で出迎え、笑顔で見送るまでできるようになったのです。

「いらつしやいませ」、「お待ちせいたしました」、「ありがとうございます」、「そして笑顔を忘れず、お客様一人ひとりをいつまでも大切に、これからがんばっていくつもりです。」

ふるさとへの手紙

忘れられない出来事

高橋 勇さん
たかはし いさむ

〓 両前寺出身〓
兵庫県宝塚市在住



仁賀保町のみなさま、新年明けましておめでとございます。

郷里を離れて四十六年が過ぎました。両親が他界し、最近帰郷の回数も少なくなりましたが、今でも子どもの頃に過ごした町の様子、風景、友人たちと遊んだことをよく思い出します。また、海に浮かぶ男鹿半島の寒風山や大きな夕日、雪の鳥海山などの風景も目に浮かびます。

こちらに住んでからの私にとって忘れられない出来事は、平成七年一月十七日午前五時四十六分、関西地方を襲った阪神大震災です。当時私は芦屋市に住んでいました。自宅で寝ていたら突然地震が起き、やっこの思いで外に出たら周りの景色のほとんど、電柱、線路、塀、ビル、家屋、橋、高速道路などが潰れて瓦礫の山と化し、散々たる光景でした。

近所では、家屋の下敷きや瓦礫

の中で三十数名亡くなりました。けが人を瓦礫の中から救出して救急車を呼んでも、火事が発生したり、道路を通れなかつたりして、ただ悔しい思いで見ているだけの状況でした。私も倒れた家具の下敷きになりましたが軽症で済みました。あの惨事は九年経った今でも目に焼きついています。

現在は宝塚市に暮らしており、長年勤めた会社を平成十二年に定年退職してからは、嘱託として会社に残りお取引先の管理審査などの仕事をしています。

仁賀保町のみなさんのますますのご繁栄とご健康、ご多幸をお祈り申し上げます。



平沢中学校卒業の昭和15、16年生まれ「平沢辰巳会」のみなさんと、年に一度の懇親会のようす

故郷は 心のオアシス

まつむらみちこ
松村美智子

(旧姓阿部)

〓 釜ヶ台出身〓
埼玉県草加市在住

仁賀保町のみなさま、新年明けましておめでとございます。

釜ヶ台を離れてから三十六年になりますが、生まれ故郷で過ごした十数年間だけの記憶の方が強く残っているのは、いつ帰っても暖かく迎えてくれる人情のおかげと思っています。

子どもたちがそれぞれに独立してからは仁賀保に帰省するのもし一人車で行くことが多くなりました。帰るたびにこちら風の風景を見ながら走って行き、日本海と鳥海山が見えて来ると心が洗われ、約六百歳の距離を走って来た疲れを全部忘れさせてくれます。最近では、仁賀保町に近づくとも風力発電の風車が見え、環境も徐々に変わっているように見えます。

こんなに素晴らしい情景を見ることが出来るのも、居住者のみなさんが力を合わせて生活環境を大



昨年成人を迎えた次男の賢さんと

事にし、一所懸命がんばっているからこそと思います。

しかし一方では、集落を離れ町の方に降りて生活している人の話を聞くと寂しい気持ちにもなります。

自分も釜ヶ台に住んでいた頃は「行楽地もなく何も無いつまらない所」と思い集落を離れてしまいました。しかし、今では改めてその「何も無い」自然に心を癒されているのです。

東京生まれの主人は、一緒に帰省するたびに自然の美しさに感銘し、「歳をとつたらこんな景色に囲まれてのんびり暮らしたい」と言うほどです。もちろん、私にとつても優しく受け入れてくれる心のオアシスです。

時節柄、厳しい寒さが続いていることと思いますが、みなさまのご健康とご多幸を願っております。

年賀にふるさとへの想いを添えていただきました。

主人のふるさととは私のふるさと

佐藤 力さん＝畑出身＝祐子さん
静岡県浜松市在住

仁賀保町のみなさま、新年明けましておめでとうございます。

私の主人（力さん）がふるさとを後にして早や三十数年になります。浜松で何年か働き、帰るつもりで会社を辞めたその時に私（祐子さん）と知り合い結婚し、その後二人の娘の父親となりました。

仁賀保には義母が一人で住んでいます。仁賀保には三年前に娘たちと帰省した時には、近所の方々に声をかけていただいたり野菜を分けていただいたり、いつ行っても変わらぬ素朴な温かさを目の当たりにしました。

主人もほっとし、安心するとともに、親孝行や感謝する気持ちがあつても何もしてあげられないもどかしさを感じていることと思



次女ゆかりさん(左側)と家族旅行

ます。自分がつらかった時に夢にまで現れたという鳥海山の雄姿、そんなふるさとの恵まれた自然が今日の主人の栄養になっていることと思います。

先日、東京で行なわれた「にかの集い」には二年続けて出席し、主人は何十年ぶりにお会いした方々と抱き合つて昔を懐かしんでいました。私もその輪に入り楽しいひと時を過ごさせていただき、あらためて仁賀保の方々の人情の深さを感じました。

主人は六年前に脱サラして会社を興し、十人ほどの従業員を持つまでになりました。近年は不況続きですが、仁賀保で培った人情深さが身につけているおかげか、みなさま方に信頼をいただき、少しでもよい商品を提供できるよう努力している毎日です。

長女も今年で大学を卒業し、私たちもちよっぴり肩の荷が下りそうです。…そんな中、なかなか筆を執らない主人に代わり私が想いを綴ってみました。主人のふるさととは、私にとっても大切なふるさとなのですから。

Nikaho is my second home. ～仁賀保は第二のふるさと～

ショウニー市書記 ダイアナ・ハロックさん（米国オクラホマ州）

新年明けましておめでとうございます。

私にとって仁賀保は、いつでも暖かく迎えてくれる第二のふるさとです。姉妹都市交流の仕事に関わり、多くの仁賀保町民と友だちになれたことを感謝しています。

新年のごあいさつ代わりに、ショウニーの年末の様子をちょっとご紹介します。

12月に入ってショウニーで開催されるのが「クリスマス・パレード」。山車や学校のマーチング・バンドと一緒に、100人以上の参加者が旗を振りながら市内を行進します。今年は、姉妹都市委員会が初めて参加し、夏に仁賀保を訪問した生徒たちも鯉のぼりやミニ竿燈などを持って喜んで行進しました。

この季節、各家庭ではクリスマスツリーを飾り、家じゅうに電飾を施すなど忙しく過ごし、クリスマスにはキリストの誕生日を祝って教会に行きます。うちに戻るとプレゼントを交換して家族で食事をします。

そしてクリスマス当日、今度は友人や親せきを招待してのディナー。ここでまた贈り物を交換し、みんなで楽しく時を過ごします。

大晦日。パーティーする人、静かに過ごす人など、お祝いの仕方は人それぞれです。わが家では、静かに行く年を惜しんで新年を迎えます。それは自身を振り返り新たなスタートを切るための、喜びに満ちた時間でもあります。

2004年、世界が平和でありますように。



8月に旅行したワシントンD.C.で、夫のフレッドさん(左)、息子デビッドさん(右)と